

¥0

Free

No.6
2014 年夏号

人がつくった自然の風景
善通寺から世界遺産
みえる

散策 善通寺

ふる里の風景を歩く



空海の里を
再発見する

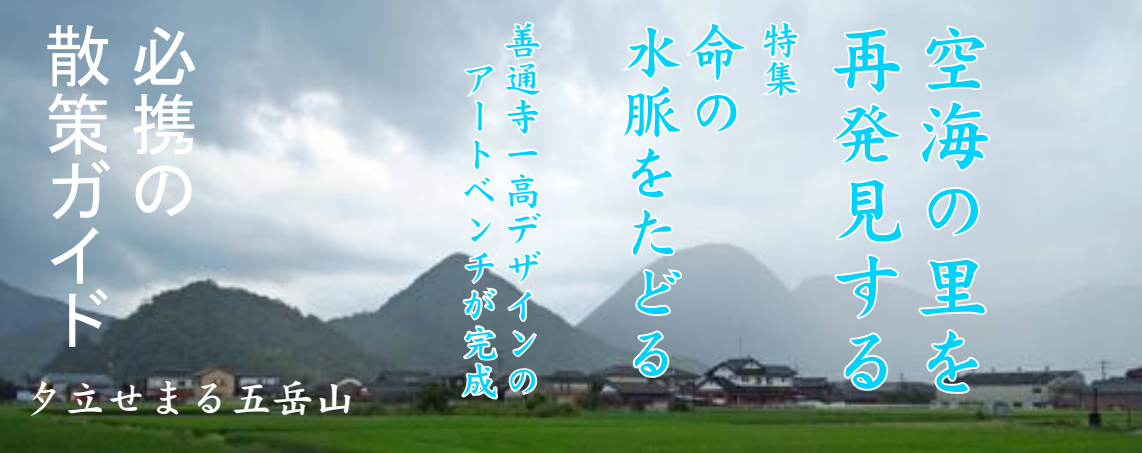
特集

命の
水脈をたどる

善通寺一高デザインの
アートベンチが完成

必携の
散策ガイド

夕立せまる五岳山





弘田川

金倉川

天霧山

弥谷寺

金蔵寺

榎湧 (永井の湧水)

曼荼羅寺

鷺井神社

甲山寺

下湧

筆の山

ひょうたん池

出釈迦寺

市民集いの丘公園

香色山

善通寺駅

旧偕行社

我拝師山

禅定寺

善通寺

四国学院大学

二頭湧

赤レンガ

金毘羅燈籠

ため池コース

王墓山古墳

大麻山

宮が尾古墳

地藏池

野田院古墳

葵の瀧

龍王社

琴平駅

金刀比羅宮

琴平山
(象頭山)

善通寺市散策マップ

大麻山

五岳山

善通寺

榊池

宝幢池

大池

宮池

金丸池

道池

善通寺と丸亀平野（飯野山より）

水路がめぐる善通寺市

空海が修築したという満濃池から流れ出る金倉川。善通寺市では、この金倉川がもたらす水を余すことなく利用できるように川や水路が張り巡らされています。また、近隣の山の水は谷に造られた池（谷池）を通じてこの水路に集まり、さらに平地の池（皿池）にためられ、必要に応じて平地を潤します。この江戸時代に完成した水のネットワークは、今も善通寺市を潤しているのです。

命の水脈をたどる

ため池コース

日々の生活に使われた湧水、田畑を潤す川の水。人々の生活を支える水はどこからくるのか。善通寺市街を流れる中谷川（二級河川）の行方を追います。

コース
紹介

街の水路は、意外な所から・・・

溜め池コースの所要時間：3時間～4時間

市民会館前

市民バス
無料

地藏池

熊ヶ池

水門

瓢箪池

花香井湧

甲山寺

総本山善通寺



ため池コース

水のネットワーク

～ 中谷川 ～



①地蔵池

中谷川の源流ではありませんが、山間の水をためる谷池で、田畑を潤し、中谷川へと続きます。江戸時代には、旅人が行き交う金毘羅街道沿いの道でした。



②熊ヶ池

この池も、山間の谷をうまく利用した谷池です。この水は直接中谷川に入ります（③分水門）。里の植物たちの生育地になっています。



中谷川源流

大麻山



③分水門（水流の交差点）

中谷川に注ぐ熊ヶ池の水は、水門によって本流と支流に分配されます。本流は市街中心部に向かって流れます。



ひょうたん
④瓢箪池

中谷川の水は、街の外れで瓢箪池や別の水路に取り込まれます。この池は江戸時代の初頭につくられた皿池（平地の池）ですが、今では散策路が設けられ、絶滅が危惧されるオニバスの生育地として市民の自慢の親水公園になっています。



⑥甲山寺

空海が満濃池の修築で賜った恩賞で建立したという甲山寺は、中谷川と弘田川の合流地点の甲山の麓かふとやまに建っています。

⑤花香井湧

善通寺市街の湧水は、網の目の水路を経て中谷川に合流します（二頭湧ふたがしらや壱岐湧など）。この湧水の水は中谷川に直接注ぎます。



絶滅危惧植物のオニバス（瓢箪池）

ひょうたんいけ 瓢箪池再発見

人がつくった自然の風景

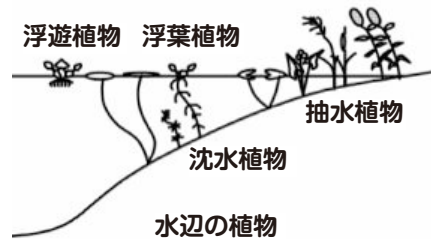
池の植物景

池にはさまざまな植物が見られます。池の中は水辺の植物、池の周りは野原の植物におおわれています。特に、水辺の植物は形に特徴があり、空気袋をもった葉で浮いているもの、根は地底にあって葉を浮かべるもの、葉だけでなく茎も空中に突き出すもの、また完全に水の中で生活するものなどがあり、それぞれ浮遊植物、浮葉植物、抽水植物、沈水植物と呼ばれます。

近年、水辺の植物は河川の水質の悪化や基盤工事などで減り続け、絶滅を危惧される植物も現れました。善通寺市付近でよく見かけるオニバスも、そんな植物の一つで、

浮葉植物に該当します。オニバスは5月に水面に顔を出し、8月の末には2mを超える大団扇^{うちわ}のような葉を池一面に広げます。葉や茎だけでなく花までも刺でおおわれ、まさに鬼のハスです。

絶滅危惧の原因は、水質悪化や冬の池の管理作業の省略化などがあげられますが、よくわかっていません。





実は、オニバスは山間の谷池よりも皿池（平地の浅い池）でよく見られます。皿池は、民家の富栄養の排水が流れ込み、浅いため高温になりやすく、大型植物の生長には好都合なのかもしれません。

皿池は、江戸時代に数多くつくられました。瓢箪池もその一つで、1625年（開幕後22年）に築造され、香川県でも初期の皿池です。皿池には、人がつくった水路で結ばれた山間の水、谷池や大きな川の水などがためられます。オニバスは、人がつくった池を自然の風景に変えてくれる植物だったのです。

渇水と洪水を防ぐ水のネットワーク

瓢箪池を満たす中谷川は、金倉川や山間の谷池の水のみでなく、湧水の流れも集めます。この付近の湧水は、金倉川がつくる地下の流れを掘り当てたものです（散策 善通

寺 No.2 参照）。

空海が中国の最新の技術で修築したという満濃池から金倉川に流れ出た水は、地上と地下の流れになります。人々は、巧みにその流れを見つけ、川や水路をつくって数多くの池に貯水しました。この網目状に張られた水路が、いわば水のネットワークとして水を万遍なく巡らせ、また池に貯水することで、人々は水を必要な時に必要なだけ使えるようになりました。

池のネットワークは、渇水時に田畑を潤す用水システムとしてのみでなく、洪水時の排水システムとしても重要な意義があります。香川県の河川は短いため、ひとたび大雨になると、水が一挙に川に押し寄せて洪水になる危険があります。川に押し寄せた水が池をつないだ水のネットワークによって分水されると、その勢いが弱まり、洪水になりにくくなるのです。

善通寺からみえる 世界遺産

バリ州の文化的景観

分水路

恵みの共有



善通寺市街にある分水路（四分水）



バリ州の分水堰（世界遺産）



バリ州の棚田（世界遺産）

世界遺産になった分水路

インドネシアのバリ島は火山島に起源する島です。人々は、古くより水を分かち合っ
てイネを育てることで、不毛の島と共生
してきました。この島で文明が開いた9
世紀より、人々は「分水」を意味するス
バック（水利組合）を組織し、厳しい掟おきてを
定めて分水路を造ってきました。それぞ
れのスバックでは、水を司るヒンドゥーの神
を祀り、水の神に感謝し、五穀豊穡を祈り
ます。標高1000m付近にあるバリ島の棚
田群は、1600のスバックに所属する人々
が島の隅々まで水路を張り巡らせること
によってできた文化的景観なのです。

こうした宗教的な考え方や儀礼で結ばれ
た水利共同体は、火山という過酷な立地
でも多くの人々の生活を可能にしてく
ました。2007年、その土地利用の例証として
世界遺産に登録されました。

善通寺市の農村景観は、バリ島のように
巨大なものではありませんが、千年以上
に亘わたって川や水路を網目状に張り巡らせ、
また神仏に雨乞いの祈祷や踊りを奉納し、
大切な水を分かち合った歴史のある景
観です。現在、街の水路の多くは蓋ふたを
されていますが、改めて文化財としての
価値を認識し、大切にしたい風景です。

水利組合が世界遺産？

インドネシアに少し変わった、そしてやや難解な世界遺産があります。正式名は「バリ州の文化的景観：トリ・ヒタ・カラナ哲学を表すスバック・システム」といい、バリの棚田を支えてきた水利組合と水の神への信仰がその対象です。



飛鳥時代より続く築堤

瀬戸内式気候で雨の少ない香川県では、古代より水争いがあったためか、既に8世紀初頭には満濃池が道守朝臣みちもりあそんによって築かれました。818年、満濃池が決壊すると、空海がこれを修築し、その恩賞で甲山寺を建立したと伝えられます。また、鎌倉時代には既に大池が存在していました。江戸時代、藩主の生駒氏と姻戚関係にあった築城の名手、藤堂高虎は家臣の西島八兵衛を池の築堤のために讃岐に派遣しました。これを契機に、讃岐では築堤ラッシュが起きました。しかし、抜本的な水不足の解消は香川用水によるものでした。

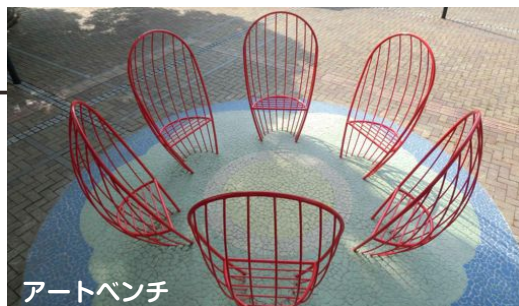
みくまりのかみ 水分神

日本でも、稲作に必要な水を分配する神は、古くから信仰されてきました。古事記の神生みの段で天水分神あめのみくまりのかみならびにくにのみくまりのかみ国水分神は水を分配する豊穰の神として、河川の上流や分水嶺に祀られました。「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産登録された飛鳥時代創建の吉野水分神社では、天水分神を祭神としています。この神社は吉野川の支流の分水嶺に鎮座します。善通寺市でも、水分神が我拝師山麓の大塚池畔に建つ水分神社に祀られています。大塚池の水の分配を守護しているのでしょうか。

完成しました

善通寺一高によるアートベンチ

善通寺第一高校の生徒がデザインしたアートベンチ（題名：「間」あわい）が完成しました。テーマはオニバス。日本のため池の代表的な植物であるオニバスは絶滅の危機に瀕しています。善通寺市ではふつうに見ることができるオニバスの花が、駅前でも市民が集うスポットになりました。池から顔をのぞかせるオニバスの花びらに腰掛けて、みんなで夏のひとときを過ごしませんか。



楠の木陰のベンチ

アートベンチは善通寺駅の駅西広場に設置されました。脇から枝をのぼす楠が、夏には日射しを遮る木陰を、冬には柔かい木漏れ日をつくりだします。

季節がめぐる街の公園

庭園、ひとくちメモ（6）

日本庭園の池泉ちせんは海を表します。庭園文化をもたらした渡来人が航海した瀬戸内海がモチーフだったようです。平安貴族は寢殿造の館の池泉りゅうとうげきしめに竜頭鷓首の舟を浮かべて栄華を極めました。平清盛が造営した厳島神社では、海そのものが池泉に使われました。

池泉には様々な水生植物が植えられます。ハスもその一つで、泥水の中から清らかな花を咲かせる姿に仏の智慧や慈悲が感じとられ、仏教では如来像の蓮華座など様々な彫像や絵画に登場します。



栗林公園 ふようしょう 芙蓉沼

芙蓉はハスの別名ですが、アオイ科の木芙蓉と区別するため、水芙蓉とも呼ばれます。栗林公園や後楽園など大名庭園にも植えられています。善通寺市内には、蓮根栽培用の蓮田として身近に存在します。

比べてウォッチ！



満濃池



豊稔池



前池

自慢の池

1万を超える池を擁する香川県には、貯水量で日本一の満濃池をはじめ、石積み式アーチダムの豊稔池など全国的に名高い池がそろっています。香川県の池は、貯水池としてだけでなく、文化財としての価値を高めています。

平野に堤を築いて造られた前池や瓢箪池は、珍しい構造ではありませんが、絶滅に瀕するオニバスをふつうに見ることができる善通寺市民の自慢の池です。

風景をたのしむまめ知識



オニバスの花

2メートルの葉は種から？

池の水面をおおい尽くすオニバスの葉は、直径2mを超える巨大なものです。実は、この植物は小さな種から芽生え、次々と葉の形を変えながら巨大化したものなのです。種から芽生えた第1葉は糸状です。次に矢尻型の葉をのぼし、やがて丸みを帯びたスイレンに似た葉になります。最後は丸い盾状の葉となつて次第に巨大化します。

オニバスの花は、ふつう開くことなく種を結ぶ閉鎖花ですが、夏の暑い日差しが続くと薄紫色の可憐な花をつけます。

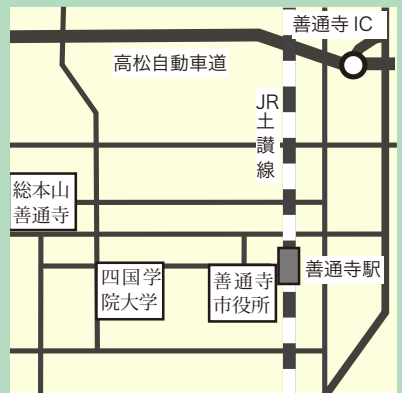
持ち物リスト		
服装	登山グッズ	その他
<input type="checkbox"/> 帽子	<input type="checkbox"/> 地図	<input type="checkbox"/> 非常食
<input type="checkbox"/> 防寒着	<input type="checkbox"/> 雨具	<input type="checkbox"/> 救急セット
<input type="checkbox"/> 長袖シャツ	<input type="checkbox"/> 飲料水	
<input type="checkbox"/> バックパック	<input type="checkbox"/> ビニール袋	
	<input type="checkbox"/> タオル	
	<input type="checkbox"/> ティッシュ	

登山の心得

- ・履きなれたシューズで出かけよう。
- ・自分のペースでゆっくり歩こう。
- ・暑い日には、帽子をかぶろう！
- ・飲み物も携帯しよう！
- ・車には十分注意しよう。
- ・ゴミは必ず持ち帰ろう。
- ・ペットの糞対策も忘れずに！



アクセス



バック・ナンバーは左のHP「散策 善通寺」より閲覧できます。

<http://shigakuweb.jimdo.com>

制作・お問い合わせ

四国学院大学

四学ウェブ

(shigakuweb@yahoo.co.jp)

制作協力

善通寺市役所土木都市計画課

(Tel. 63-6314)

参考文献

みちくさ遍路 2001

